

令和 7 年度

運営に関する計画

(中間評価)

令和 7 年 10 月



大阪市立神路小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、「強く 正しく 朗らかに」を校訓に、「豊かな心を持ち、自ら学び、考えたくましく生きる子どもを育てる」を教育目標に掲げ、日々の教育活動に取り組んでいる。

【安全・安心な教育の推進】では、児童の安心・安全の実現のため、教職員が共通理解のもとで児童の指導にあたるとともに、家庭、関係諸機関とも連携して、子どもたちの安心・安全な教育の推進に取り組んでいる。

児童用学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目についての肯定的な回答の割合は、学年間で多少に差異はあるものの、概ね目標値には達しているが、学習規律を含めた規範意識については、まだ向上の余地があるため、さらなる取組の推進をおこなっていく。不登校児童の在籍比率および前年度不登校児童の改善の割合については、学校全体での取組および外部機関との連携を進めており、いずれも前年度と同程度であった。また、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合については、「思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて、目標値に達しており、さらなる意識の向上に取り組む必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】では、本市の学力向上支援事業を活用し、教職員の授業力向上のために、研修・研究授業を活性化し、取組を進めている。

令和 4 年度大阪市小学校学力経年調査の結果では、全市目標における意識調査の項目においては、各学年で差異はあるものの、概ね目標に達するか、それに近い数値となっており、とくに運動やスポーツに対する意識は高い。一方、国語および算数の平均正答率の対大阪市比をいずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させるには至っておらず、さらなる学力向上の取組が必要な状況となっている。I C T の活用については、積極的にその活用が進められており、学習者用端末の月間活用率は、いずれの月においても 100% に達している。また、食に関する指導や健康に関する指導については、保護者用校内アンケートで肯定的な回答が高い割合を示しており、充実した取組が実施されている。

【学びを支える教育環境の充実】では、前項にあるように児童の学習用端末の積極的な活用が進められており、また、デジタル教科書の積極的に活用するとともに、学習教材の活用を進めている。また、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合については目標値に達したが、教員の勤務時間に関する基準 1 および基準 2 を見満たす教職員の割合は、12 月末現在において、基準 1 については 90%、基準 2 については 100% となっており、取組は進んでいるがまだ改善の余地がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 児童用校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。
(令和5年度 82.9% 令和6年度 80.7%)
- 保護者用学校アンケートで「学校は、子どもの健康・安全に対する取り組みを進めている」の項目の肯定的な回答の割合を毎年向上させていく。(令和5年度 82%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における府平均との標準化得点を、100とする。
- 児童用校内アンケートの「授業の内容はよくわかりましたか」に対して肯定的な回答の割合を毎年向上させ、令和7年度には92%以上にする。
(令和5年度 89% 令和6年度 89%)
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点が大阪市の平均と同程度にする。(令和6年度 男子 48.14 下回る、女子 52.03 同程度)
- 児童用校内アンケートにおいて、「自分からすすんで運動をしていますか」に対して肯定的な回答の割合を80%以上にする。(令和5年度 79.1% 令和6年度 77.9%)

【学びを支える教育環境の充実】

- デジタル教材を活用した学習を週3回以上実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（基準2）を見満たす教員の割合を100%にする。(令和6年度 基準1は90%、基準2には100%となっており、取組は進んでいる。)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
(令和5年度「思う」72.1% 令和6年度70.9%)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(令和5年度4人 令和6年度4人)
- ・年度末の校内調査に1.01.01において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(令和5年度4人 令和6年度2人)
- ・児童用校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。(令和5年度 82.9% 令和6年度 80.7%)
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(令和5年度 71.0% 令和6年度 74.0%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。
(令和5年度 38.2% 令和6年度 29.5%)
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
(6年国語、5年6年算数で下回った)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。
(令和5年度 70.7% 令和6年度 67.5%)
- ・食に関する指導の全体計画に基づき食育を推進し、学校アンケートの「食に関する指導の充実」に対して肯定的な回答の割合を80%以上にし、校内児童アンケート「給食をおいしく、残さず食べている」に対して肯定的な回答の割合を80%以上にする。
(令和5年度 84.6% 令和6年度 87.0%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
(令和6年度 月平均 47.8%)
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（基準2）を見満たす教員の割合を100%にする。
(基準1：90% 基準2：100%)
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。(R6 91%)
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。
(R5 71.3% R6 65.0%)

大阪市立神路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）（様式2）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった		B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標	達成状況	
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】		
・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 (R5 72.1% R6 70.9%)		
・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (R5 4人 R6 4人)		
・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (R5 4人 R6 2人)		
・児童用校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。 (R5 82.9% R6 80.7%)		
・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 (R5 71.0% R6 74.0%)		
		B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安心・安全な教育環境の実現】 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。	
指標 ・いじめのアンケート調査を定期的（毎学期）に行う。 ・月1回生活指導部会を開くとともに、職員会議時のなどをもとに随時情報を共有する。児童の問題行動について指導の共有化を図る。	B
取組内容②【1 安心・安全な教育環境の実現】 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。	
指標 ・スクリーニングシートを定期的に（学期に一回）作成し、不登校児童の実態を調査する。 ・区役所の子育て支援やスクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)と連携しながら問題事象の解決を図る。	B

<p>取組内容③【1 安心・安全な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童用校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活のきまり」や「学校安心ルール」をもとに全教育活動を通して、規範意識の向上を図る。 ・月目標を設定し、年間を通して継続して指導に取り組む。 	B
<p>取組内容④【2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級での終わりの会等で「いいとこみつけ」を取り組み、自己肯定感の向上を図る。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 経年調査でのアンケートが未実施だがいじめアンケートは学期毎に行い、課題の早期解決に向けて取り組むとともに部会を定期的に開き情報の共有を行っている。</p> <p>② スクリーニングシートを学期毎に作成し、SCや子育て支援と連携を取りながら取り組んでいる。</p> <p>③ 教育活動を通して意識の向上に努めているが、意識がまだ足りていない。</p> <p>④ 終わりの会等で「いいとこみつけ」を取り組み、意識向上に努めている。</p>	
最終評価への改善点	
<p>① 教員間だけでなくサポーターとも指導の共有化を図りながら今後も継続して取り組む。</p> <p>② 引き続き気になることがあれば連携・情報共有を行う。</p> <p>③ 児童会等で取り組んでいるような廊下・階段を走らないようにする取り組みを継続して声掛けを行う。</p> <p>④ 「いいとこみつけ」を継続して行うとともに、道徳や机間指導でも一人一人に声をかけて自己肯定感の向上を図る。</p>	

(様式 2)

大阪市立神路小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。 (R5 38.2% R6 29.5%) ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を下回らないようにする。 (6年国語、5年6年算数で下回った) ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。 (R5 70.7% R6 67.5%) ・食に関する指導の全体計画に基づき食育を推進し、学校アンケートの「食に関する指導の充実」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にし、校内児童アンケート「給食をおいしく、残さず食べている」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にする。 (R5 84.6% R6 87.0%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員全員が公開授業を実施する。 ・児童アンケートにおいて「授業の内容はよくわかりましたか」に対して肯定的な回答の割合を 85%以上にする。また、否定的な回答の割合を 5 %以下にする (R6 7.8%) 	B
<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を下回らないようにする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて自主学習ノートの内容を紹介するとともに、児童アンケート「内容を工夫して自主学習ノートに取り組んでいる」の肯定的な回答を 80%以上にする。 ・自主学習ノートにおいて、年間を通じて、3 行日記や俳句など、「書くこと」の学習に取り組む。 (R5 55.0% R6 60.1%) 	B

取組内容③【5 健やかな体の育成】

- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

指標

- ・体育器具・用具を整備・活用し、児童が運動に親しむ機会を増やす。
- ・校内児童アンケート「自分からすすんで運動をしていますか」の項目で、肯定的な回答の割合について80%以上をめざす（R5 79.1% R6 77.9%）。また、否定的な回答の割合を15%以下にする（R6 20.5%）

B

取組内容④【5 健やかな体の育成】

- ・食に関する指導の全体計画に基づき食育を推進し、学校アンケートの「食に関する指導の充実」に対して肯定的な回答の割合を80%以上にし、校内児童アンケート「給食をおいしく、残さず食べている」に対して肯定的な回答の割合を80%以上にする。

指標

- ・食に関する指導の全体計画に基づき食育を推進し、学校アンケートの「食に関する指導の充実」に対して肯定的な回答の割合を80%以上にし、校内児童アンケート「給食をおいしく、残さず食べている」に対して肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- ・アレルギー対応について、必要に応じて研修会の開催や日々の連絡により、安全を徹底する。
- ・養護教諭・栄養教諭と連携し、健康に関する指導をすすめる。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 学習活動の中で、話し合いの場面を積極的に取り入れている。教員の研究授業・討議会、公開授業も計画に従って実施している。
- ② 自主学習ノートは学年の実態に応じて取り組んでいる。内容が工夫されているノートは紹介するなど、励みになったり、他の児童の参考になったりできるようにしている。
- ③ 今年は、暑さのために運動量の確保ができなかった期間が長かったが、体育館での活動を工夫し、できるだけ楽しく運動に取り組めるようにした。
- ④ 計画的に栄養や健康に関する指導をしている。年度の初めにアレルギーに関する研修会を行い、教職員の共通理解を図った。

次年度への改善点

- ① 6年間を通して、「書くこと」の指導を継続する。（ノート指導を含む）
- ② 取り組みに、学年によりばらつきがある。また、児童の提出や取り組み姿勢にも差がある。
- ③ 夏の期間の運動量が少なかったので、秋～冬の期間で運動量が確保できる活動や運動遊びを工夫する。
- ④ 指導、取り組みを継続する。

(様式 2)

大阪市立神路小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く] (R6 月平均 47.8%) 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (基準 2) を見満たす教員の割合を 100% にする。 (基準 1 : 90% 基準 2 : 100%) 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90% 以上にする。 (R6 91%) 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72 % 以上にする。 (R5 71.3% R6 65.0%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【6 教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く] <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教材や学習支援ツールを活用した学習を週 3 回以上実施する。 心の天気を日々入力するようにする。 	B
<p>取組内容② 【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (基準 2) を見満たす教員の割合を 100% にする。(基準 1 75% 基準 2 93%) 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90% 以上にする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆとりの日を週に 1 回は実施し、その取り組みができているかを検証する。 	B
<p>取組内容③ 【8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72% 以上にする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書に興味を持ってもらうために、読書タイムなどに本の紹介や読み聞かせなどを行う。 図書開放を行い、本に接する機会を増やせるようにする。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 心の天気の入力をすすめている。 高学年を中心にデジタル教材や学習ツールを生かしている。</p> <p>② 週一回のゆとりの日の設定ができている。 長期休暇を中心に有給休暇を取得している。</p> <p>③ 学年別の読み聞かせの日をこれまでに引き続き設定している。 図書開放がはじまり、休み時間に図書室に利用している児童がいる。 読書に興味をもつ児童は増加している。</p>
最終評価への改善点
<p>① 全学年で心の天気の入力をできるように、引き続き取り組む。</p> <p>② 継続する。</p> <p>③ 高学年を中心に本の紹介をするなど取り組みが必要。</p>

